

(様式1)

自己評価票(東ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設当初から事業所独自の理念を大切にし、守り続けている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>常に理念を念頭に置き、ケアプランにも反映させ日々ケアに当たっている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族へは、入居時に理念の説明をし理解を得ている。運営推進会議の中でも理念の説明と、地域の中で生活を維持していけるよう、理解と協力を得られるよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>職員は地域の方々に広く顔を知ってもらうために、年に一度家族や地域の方々を招待し開催される交流会で披露する踊りを、地域の婦人会の方々に教えていただいたりと積極的に交流の機会を設けている。また、保育園や地域の小学校の行事、敬老会にも参加させていただいたりと交流を図っている。運営推進会議の中では、地域に暮らす認知症高齢者の相談を受け付け、対応について話し合いを持っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の移動や離職の際には、最低1ヶ月間の引き継ぎ期間を設け、利用者や家族への影響を最小限に止めるよう配慮している。</p>		
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に職場内での勉強会を開催したり、外部の研修にも新任研修を始め段階に応じた研修を確保している。また新人職員に関しては、自立し業務に当たる事ができるまで、中堅の職員が指導に当たっている。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関係団体が主催しているケアマネ会議に月1回出席し、各事業所のケアマネや行政とサービスに関する情報交換や意見交換など質の向上に努めている。また、GH協会の研修や会合に参加し、情報交換を行っている。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスを溜め込まないよう、お互いがお互いの立場に立って気軽に相談・意見等話せる環境作り・チームワーク作りを心掛けている。また、定期的に職員の親睦会を行ったり、主任、リーダーが相談役となっている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>月に1度の勉強会は、外部で研修を受けた職員が中心となり、研修で得た知識を他職員へも伝えながら意見交換を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初期の相談の段階では、家族や本人の想いを汲み取り不安解消出来るよう努めている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居申し込みの際に、待機しなければいけない場合は他の施設への申し込みやサービス利用への説明等も合わせて行っている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>その都度、在宅での生活環境や習慣等家族より情報を得ながら、様々な工夫や対応をすることで安心して生活を送る事が出来るよう支援している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>常に利用者本位を心掛け、楽しみや趣味を一緒に活かせるよう努力し信頼関係作りに努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族へは常に対応についての相談や話し合いをしながら、家族と一緒に本人にとってのより良いケアを目指している。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれの家族関係を理解しながら、時には職員が間に入り良好な関係を築けるよう支援している。また、時には家族から本人との関係について相談を受けたり、家族間の仲介をすることもある。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域(馴染みの場所)へ外出することで、馴染みの人と出会うことが楽しみとなるよう、定期的買い物に出掛けている。また、地域で開催されている介護予防の骨太教室にも出掛け、地域の方と交流している。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の気の合う仲間・共通の話題や趣味に合わせ、一緒に外出したり、座る場所等を変えるなど工夫している。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同じ地域の為、退居後でも家族と行き会う機会が多く、その時には声をかけどうしているか状態を聞き、助言を受けるなど心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族との会話の中から利用者のニーズを引き出し、希望に添えるような対応に努めている。また、センター方式アセスメントツールを活用することで、利用者本位のニーズを引き出しケアプランに活かしている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時にアセスメントを実施し、全職員で情報を共有し把握している。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々の心身状態に合わせ、適度な運動や静養など個別に支援を実施している。また、その人にあった役割を持ち生活を維持出来るよう支援している。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の生活を観察し、変化に応じカンファレンスを開催しケアについて本人本位に視点を向け、意見交換や対応について検討している。また、必要があれば医療とも連携しながらケアプランに反映させている。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回確実にカンファレンスを開催し、介護計画書の見直しを行っている。状態変化が見られる時には、その都度カンファレンスを開催し対応を検討している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケアプランに沿った記録を取ることで、実施状況や内容が把握出来、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	居室が開いている場合は、ショートステイを利用して頂けるように居室と連絡を密にし対応している。また、認知症の相談窓口として活用してもらえるよう呼びかけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の小学校とは、毎年定期的に交流する機会を設けて頂き、子供達との交流を楽しんでいる。特にふるさと交流会では、昔なつかしい遊びを利用者から子供達が学ぶ機会もあり、利用者が活躍する場となっている。		
38 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退居される時には、他機関へと繋げサービス利用が円滑に進むよう支援している。		
39 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、権利擁護が必要な利用者に関しては、行政と協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、協力医療機関を勧めてはいるが、あくまでも強制ではなく本人や家族の希望にできるだけ応えるよう支援している。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医との連携の中で、必要があれば専門病院受診へと受診支援する事が出来ている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月2回往診を受ける際に、必ず看護師が同行しているので顔馴染みの関係が出来ている。また、往診以外にも定期的に看護師の訪問があり、利用者の健康管理の為協働することが出来ている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際には、病院を訪問し医療機関と情報交換し連携している。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナル期を迎える前に、事前に家族や本人の意思確認を行い、早期に医療機関や家族、事業所と話し合いの場を設けている。その後は職員間で対応を検討・情報を共有しながらケア当たっている。また、その時の状態に応じ、その都度医療機関や家族と連携を図り対応を検討している。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医と、事業所でできないところについては十分話し合いを行い、常に連携してチームで支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他機関や在宅復帰により別の居所へ移る場合は、家族や他機関のケアマネへと情報を提供し、環境変化によるダメージを最小限に止める事が出来るよう努めている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者に対し、一人ひとりが尊厳を保ち生活出来るように支援している。個人情報の取り扱いに関しては、外部へ漏らす事のないよう細心の注意をはらっている。</p>		
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>行事への参加・外出・入浴等、無理強いせず、本人の意志確認を行い任せるようにしている。施設内・外でも自己決定できる場面を多く持つように努めている。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人ひとりのペースを把握し、その人のペースで生活出来るように支援している。常に本人がどうしたいのかを確認しケアに携わっている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望に合わせ美容院でカットや毛染めができるよう支援している。また本人が好む服装ができるよう購入等の支援をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と同じ物を一緒に食べている。可能な入居者は食材の下ごしらえや盛りつけが出来るよう支援している。また下膳も出来るよう支援している。食器洗いは職員、食器拭きは、入居者と役割分担し毎食後協力して片づけを行っている。定期的に季節の食材を採り入れた食事会も開催し、みんなで食事を楽しんでいる。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人が好む飲み物を購入し、水分補給時やおやつ時などに提供している。また、入居前より毎日お酒を飲むことを楽しみとしていた入居者には、入居後も楽しみが継続できるよう支援している。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	可能な限りトイレで排泄できるよう、排泄チェック表の記録を把握し入居者の排泄リズムに合わせてトイレ誘導や声かけを実施している。失敗時の交換の時には羞恥心に配慮した声かけを実施している。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在入浴は1日を通して行っており、本人から入りたい時間や順番等の要望があった場合は、対応できるよう努めている。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの生活習慣を把握し状況を観察することで、休息や安眠ができるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭き、洗濯物をたたむ、ゴミ集め、掃き掃除などは役割が決まっており、それぞれに意欲を持ち進んで行うことができる。また趣味を楽しむことができるよう支援している。(例)畑仕事、裁縫、ビデオ鑑賞、読書など		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の金銭管理能力に応じ買い物や外出の際には金銭の受け渡しができるよう支援している。広告等を見て欲しい物があつた際には購入できるよう支援している。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	定期的買い物や資源ゴミを地域の収集場所に分別しに出掛けている。また天気の良い日は散歩したりドライブに出かけたりと気軽に外へ出掛け気分転換を図っている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者から要望があつた際には個別ケアとして外出の支援をしている。また定期的に外出行事があり、その中でも家族と一緒に出掛けることができるような企画も実施している。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いた際にはそのまま本人に手渡しているが、要望があれば開封し読むなどの支援をしている。電話をかけた時、受けたりは本人の要望に添い支援している。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	外出行事などで居ないときには事前に家族へ連絡している。その他はいつでも気軽に面会に来てもらえるよう努めている。訪問時にはゆっくりと会話ができるよう居室で過ごしてもらい、お茶を出した後は極力訪室しないよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束はいけないという認識を持ち、束縛しない自由な生活ができるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は開放し、外へ出たい時には職員が必ず付き添うことで自由に出入りできるよう支援している。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜問わず必ず職員が見守りできる体制を取っている。側を離れる時には必ず声を掛け合っている。居室で過ごしている際には、さり気ない声がけで訪室し、入居者の様子や安全の確認をしている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人ひとりの危険性を把握し、必要に応じ物品の保管や管理を実施している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者一人一人の状態を常に把握し、情報を共有し予測されるリスクについて検討し事故防止に取り組んでいる。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に勉強会を開催している。また緊急時の対応マニュアルを掲示している。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	様々な想定避難訓練を定期的実施し、地域の方々には防災時の避難誘導について協力を求め、連携体制を整えている最中である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p> <p>入居の契約の際にリスクについて説明をし、理解と承諾を得ている。その後状態の変化などがあつた際には、その都度家族と話し合う機会を設けている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>毎日血圧測定や検温を実施し、変化時には報告を徹底している。また身体状況の観察と把握、異常時の報告をし、医療機関へと連携を取ることで異常の早期発見に努めている。</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>入居者一人ひとりの薬を全職員が把握し、主治医の指示通り服薬できるよう支援している。処方に変更や副作用などについての留意点の指示があつた時には全職員が確実に把握し観察できるよう支援している。</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>便秘予防できるように適切な水分摂取量を確保したり、適度な運動(施設内の散歩など)ができるよう働きかけている。</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>食後のうがい、義歯の手入れを行っている。見守りや介助が必要な入居者にはそれぞれ支援している。就寝前には必ず義歯を外してもらい毎日洗浄剤に浸け清潔を保てるよう支援している。</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>食事・水分チェック表へ記録することで一人ひとりの摂取量の把握ができています。不足傾向にある入居者に関しては、本人が好む飲み物や補水液を提供したり、摂取しやすいうようにゼリーで対応したり工夫している。栄養面では経口栄養剤で不足分を補えるよう対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては毎年予防接種を実施している。その他の感染症はマニュアルを作成し対応できるようにしている。ノロウイルス感染症については特に留意し、外部からの来客には手指の消毒や食べ物の持ち込みの制限・定時のトイレ消毒を徹底し実施している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用用具や布巾などは毎日消毒したり、食器類は定期的に消毒している。全職員が食材に触る際には必ず手指の消毒を実施している。食中毒防止のため、生ものを控えたり、盛りつける前に検食を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には花壇を設け、四季折々の花を楽しみながら明るい雰囲気作りに努めている。また玄関に表札を設置することで、安心して出入りできるよう努めている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は一般家庭と何ら変わらない設備を心掛けている。直射日光が入る所へは日差しを和らげるよう日よけを設置したりと居心地よく過ごせるよう配慮している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者間は馴染みの関係ができており、食堂でくつろいで過ごしていることが多い。少しの時間横になりたいと思った時などは小上がり(畳のスペース)やソファで休むことができるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家で使っていたタンスやテレビの持ち込みや家族の写真などを飾ることで安心し、自分の空間と感じることができるように配慮している。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>ホールにはマイナスイオンの空気清浄機と加湿器を設置し、ウイルス対策を実施している。施設内には吸気・排気口を各所に設置されているため、常に空気の循環ができています。またホールには湿度・温度計を設置し、定時にチェックすることで快適に過ごせるよう配慮している。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内は全てバリアフリーとし、至る所に手すりが設置され安全に移動できるようになっている。歩行状態が不安な入居者に関しては、歩行器を使用するよう促している。浴室は一般浴とリフト浴とが一緒になり広い空間でゆったりと入浴できるようになっている。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室の扉には各入居者の写真を飾り認識しやすいよう配慮している。トイレの扉は居室とは異なるオレンジ色にし、さらに和式便器の絵に「便所」と記した目印を下げ工夫している。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>中庭にはサボテンや観葉植物を置き、またいつでも気軽に過ごせるスペースとしてテーブルとベンチを設置している。施設の裏には畑を作り、野菜作りや収穫、草取りなどを職員と一緒にしている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目 (東ユニット)		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

* 家族との信頼関係を築くためと、頻繁に面会に来れなくても生活の様子や健康状態が分かるように、個々の利用者の担当職員が毎月個人向けの新聞を写真入りで作成することに取り組んでいる。 また、外部向けに毎月新聞を発行し、各町内会長に協力を得て町内に回覧している。

* 主任はり - ダ - 実践者研修で学んだ事を活かし、全職員がケア目標を掲げケアに当たる事が出来るよう取り組んでいる。